



2つの「福祉センター」の統合は!?

三浦賢治 議員

竜北福祉センターと 宮原福祉センター

議員 宮原福祉センターでは、現在どのような事業が行われていますか。

また、合併の際に協議会では協力の取扱いについて、どのような協議がなされたか。

健康福祉課長 介護保険事業の中で、宮原福祉センターにデイサービス宮原とヘルパーステーション氷川の事業所があります。

デイサービス宮原は、介護保険事業であるデイサービス事業と町の委託事業の生き甲斐対応型デイサービス事業に取り組みられています。

ヘルパーステーション氷川は、身体介護、生活援助などの必要なサービスを提供する介護保険事業の居宅介護等事業や障がい者のホームヘルプ事業に取り組みられています。介護予防事業として、健康器具を使ったフリートレーニング事業に利用しています。

また、合併の際には、協力の取扱いについては、

2町の社会福祉協議会は、合併時に統合するという調整方針が出され、2町合併と同時に合併されております。

議員 デイサービス事業、訪問介護事業、地域包括センター事業が行われていますが、「介護保険」と「受託者分」がありますが、どのような事業内容ですか。また、民間の介護施設で介護サービス事業があるが内容は同じか。

健康福祉課長 介護保健事業でのデイサービス事業は、送迎による施設での食事や入浴、レクリエーションなどの自立支援に係るサービスの提供で、町からの受託分として介護保険開始以前から利用され、介護認定を受けられていない方への生き甲斐デイサービス事業があります。

訪問介護事業では、居宅での身体介護、生活援助等の必要なサービスを提供するものです。地域包括支援センター

は、介護保険法に基づき氷川町包括的支援事業実施に関する委託について契約をしております。事業は、介護予防ケアマネジメント業務、総合相談支援業務、権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務です。

なお、民間の介護施設で実施されていますデイサービス事業や訪問介護事業も介護保険法に基づくサービス提供であり、事業内容は同じです。

議員 2つのセンターで入浴サービス事業が行われています。近隣でも入浴サービスがあり、利用者の減少などで経営状態は厳しいものと思われま

す。現在の状況で、費用対効果はあるのか。

健康福祉課長 利用者数は年々減少傾向にあり、平成25年度の竜北福祉センター入浴利用者数は51,834人、同じく宮原福祉センターは12,442人となっております。総経費で比較しますと、平成25年度の竜北福祉センターの収入は1,664万3,129円に対し、支出合計は5,120万5,673円。宮

原福祉センターの収入は250万7,950円に対し、支出合計は1,495万6,551円となっております。

決算上は大幅な赤字となっておりますが、費用対効果としては、地域福祉の増進を図る施設として活用されており、効果があるものと考えています。赤字の幅が大きく、今ある施設の利用促進を図っていきたいと思います。

議員 合理化を図るため、2つのセンターを統合する考えはあるのか。

それと、介護事業をどう考えているのか。今、多くの民間企業が介護事業に参入しているが、民営化に移行することはできないのか。

町長 デイサービス事業につきましては、今2カ所に社協の職員を配置してサービスを提供しています。社協のほうでも事業の見直し、財政再建という部分について第三者も交えて検討を重ねており、その方向性として、28年度から統合して1カ所ですべてサービスを提供してはどうかという提言がなされておりますので、判

断をさせていただきます。

その他の介護事業についても、民間の施設が増え、その中で社会福祉協議会がこれまでその事業を担わなければならないのかという部分を精査する時期にきています。社協でなければできない事業もありますので、そういった部分につきましては、その役割を担っていくという住み分けをしてまいります。現在、見直しを進めているところであり、再編状況を見ただえで施設の統合、あるいは事業所の統合という部分で議論されてくると思っております。

いずれにしても、我が町には福祉センターが2カ所あるわけで、1カ所に統合した場合、残りの1カ所をどう使っていくのかということも、しっかり考えていかなければなりません。そういった意味で、27年度におきまして、公共施設の管理運営計画を作成することにして